

# 東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合  
横浜地方本部  
発行者/ 松田 和秀  
編集者/ 教育・広報部

## 申第7号「京浜東北線鶴見駅～川崎駅間における架線切断」に関する緊急申し入れの団体交渉開催

横浜地本は4月11日、申第7号「京浜東北線鶴見駅～川崎駅間における架線切断」に関する緊急申し入れの団体交渉に臨みました。

交渉の冒頭、私たちは2017年12月16日に事象が発生し、緊急申し入れという形で提出をしてきましたが、支社はこの時期の開催となった理由として「この間、原因究明・対策を会社で練ってきた。その対策が終了したので団体交渉の開催に至った」と説明しました。

### ↓申し入れ内容と会社回答↓

- 1、架線切断に至るまでの時系列を明らかにすること。  
《回答》2017年12月16日10時56分に発生し、お客さま救済や設備の仮復旧作業を行い、17時39分に全面運転再開した。
- 2、架線切断に至る原因を明らかにし、再発防止に向けた対策を明らかにすること。  
《回答》エアセクションの架線調整後、補助吊架線と曲線引金具が接触し循環電流により補助吊架線が断線したと推定している。なお、必要な対策は実施していく。
- 3、「作業計画」「作業施行」「発注」に問題はないのか明らかにすること。  
《回答》結果として補助吊架線と曲線引金具が接触し、事象の発生に至った。
- 4、作業行程上に、確認・検査は含まれていないのか明らかにすること。  
《回答》作業行程上に確認は含まれている。
- 5、施工工事における最終確認は、どのように行っているのか明らかにし対策を立てること。  
《回答》工事施工完了後にしゅん功検査を実施している。
- 6、お客さま救済と運転再開までに多大な時間を要したのは、なぜか明らかにし対策を立てること。  
《回答》隣接線の機外停車救済後速やかに実施している。
- 7、救済に行っていた現地責任者と指令とのホットラインが繋がらない事象が発生したのは、なぜか明らかにし対策を立てること。  
《回答》複数の列車で救済を行っており、一時的に繋がらなかった。なお、必要な対策は実施していく。

交渉（要旨）では、今一度詳細に時系列の報告を求めました。プレス発表はしているが、その当時現場で携わった社員に対して周知しているのか。また他の職種に対しての情報の共有は図ってきたのかに対して会社は「発生は10時56分。その後京浜東北線の車内で具合が悪くなったお客さまが数名いた。その救済に時間を要した。走行箇所が真ん中であつたため、横須賀線と東海道線についても運転を見合わせた。復旧作業し概ね2時間ぐらいで作業は終了し、その後17時39分に全面運転再開した。関係する電力系の社員に事象については、現場の方で原因等を含めて周知を行っている。支社の中でも振り返りは行っている。その中身を地区の現場長会議で知らせている。細かい時系列についても振り返りの資料の中に入れてある。それを見ていただければ事象については把握出来ると思うが、個別に詳しい乗務員区には出向いて説明等はしていない」また今工事については「東京電気工事事務所がパートナー会社に発注し、責任施工で行われているため、発注元が口出し出来ない」という事が明らかになりました。「工事時間については、1時30分～4時00分の間で行われ時間に対しては問題なかったが、補助吊架線と曲線引金具の離隔は一般的には150mmであるが、近づいた状態であった。その状態で何本か電車が走行しているなか、どこかのタイミングでぶつかりショートしたと考えられるので、今回の対策としては離隔距離を確認することと、離隔出来ていなければカバーをしていく」とし、施工工事における最終確認は「会社としては工事自体の最終確認は、全体の工事が終了し最終的なものが品質として出来ているのかであり行っている」と回答しました。

お客さま救済に関しては「今回の降車誘導を速やかに行っても1時間～1時間半はかかる。電気のある電車を速やかに動かし線路上を歩いてもらう事象を減らすように今後は手配をしていく」。ホットラインが繋がらなかったことについては「実際一時的に何回掛けても繋がらなかったのは現実であり、担当する専任する者を必要な限り割り振りをすることによって解消されると思うので対策を進めていくのと、指令は駅間に停車している救済すべき列車1編成に1人ずつ責任者をつけて連絡体制を取るようにした」と回答しました。

**労働組合として安全問題には妥協せず、今後も議論をしていきます。**